

成長に一步踏み出す経営シリーズ⑫

お友達感覚の従業員への対処視点は？

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【権威失墜の“校長先生”？】

昔、校長先生と言えば、小学生や中学生なら“震え上がる”ほど怖い存在でした。そのひと昔前には“父親”の権威は、家庭内では絶対だったかも知れません。しかし、世の中の変化はそんな権威を急速に低下させているようです。

その影響が、今、企業経営者の皆様に少しずつ及んでいるかも知れないのです。

【元気な会社が突然トラブルに…】

たとえば、あるベンチャー企業は仲のよい“仲間”集団でしたが、事業が軌道に乗り、経営者が経営者らしく振舞い始めた瞬間に、従業員が反旗をひるがえすという“事件”に至りました。

従業員側の主張は『一緒に苦勞して会社を大きくしたのに、社長は今や自分だけの会社だと思っている』という不満です。

【社長も特別な存在でなくなりつつある…？】

もちろん、それは従業員側の給与引き上げ交渉の口実に過ぎないかも知れませんが、現代では、組織の中で、必ずしも社長が特別な存在ではなくなりつつあるという感覚が必要かも知れないのです。少なくとも、社長はもはや絶対服従しなけ

ればならない存在だと、無条件では思えない存在になって来ているのでしょう。

【すべてが変わったわけではないが…】

もちろん、すべてが変化したとは申しませんが、社長の権威や指導的ポジションを守るにも、ちょっとした工夫が必要になったと考えた方が、今や無難だろうという気がします。

では、そのちょっとした工夫とは何でしょうか。それは、やや複雑な問題を含みますが、一口に言えば『お友達感覚で経営者と接しがちな従業員には、あるべき節度を指摘する第三者の存在がますます重要になる』ということです。

【マネジメント・レポートを差し上げます！】

1対1では、なかなか自分の主張を曲げない人材も、第三者が入ると、少しずつ理解を始めるケースが少なくありません。

もちろん、私どもを、その第三者にさせていただく場合には、経営者の皆様と十分にコミュニケーションをとらせていただく必要がありますが、まずは最近の事例をご紹介したレポートをご用意しました。ご希望者にはレポートを差し上げますので、ご遠慮なく下記までご一報ください。



雰囲気がよく、仕事への意識も高かったはずの組織が、突然ドロドロした空気に陥ることがある。それは表面的には“未払い残業代”請求のようなトラブルだが、その底に流れる現代風潮を捉えなければ“本姿”を見失いかねない微妙な問題でもある。

逆に“本姿”が見えるなら、対応を間違えることも少なくなるはずなのだ。

今月のレポートのFAXお申込み欄

FAX：0985-71-2076

<input type="checkbox"/> 今月のレポート希望	御社名：_____
<input type="checkbox"/> 今後毎月の送付を希望	お名前：_____ お役職：_____
<input type="checkbox"/> FAX中止希望	ご住所：_____
レポート：HMRP086	TEL：_____

(お問い合わせ先)

ウチヌノ人事戦略事務所 所長 内布 誠 TEL0985-71-0147